

令和7年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(1)

「これまでの取り組みより」

課題	助言・提言
骨折予防	・知立市が県下で5番目に骨折が多い要因を丁寧に分析できるといい。分析することで、未然に転倒を防ぐストレングスを見つけ出せるといい。(古い戸建等住環境、免許返納率、特定健診などの栄養評価などに関連してみてもいい) ・秋冬に骨折による相談が増える印象。夏の猛暑で外出が出来ず自宅内でフレイルが進行してしまう。 ・小規模でも自宅から行ける場所があるといい。 まちかどオンラインの普及啓発と合わせて、オンラインの設定等やれるようにするための教室等支援もできるといい。 ・老健内の地域貢献委員会で、リハビリ専門職が活躍できていないという課題が挙がっている。地域の取り組みとむずびつけられるといい。(高齢者支援や高齢者サロンへの支援など)
在宅療養の手引き	・包括職員やケアマネに関わらない方もいるため、市内病院のソーシャルワーカーに案内できるといい。 ・入院時など病院で渡せると、医療から介護につながらないケースにも情報が提供でき、家族が早期に退院準備ができる。書き込みができる様式がよい。 ・専門職種 of 役割とともに社会資源をみせられるといい。 ・ストレスチェック項目やそこから相談先へつながれるといい。

令和7年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(2)

「これまでの取り組みより」

課題	助言・提言
男性の通いの場	・いかに取り組みが楽しいことか、健康につながるものか地域に広く伝えていくとよい。 ・実際に楽しんでいる人の声を広報に取り入れることが広がっていくコツである。

令和7年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(1)

「多職種連携会議から把握した課題」

課題	助言・提言
高齢者にもわかりやすい情報発信	・包括支援センターを知らない方に向けてわかりやすい周知を行う ・広報等周知する媒体を高齢者向けに大きい字、カラーにすること、QRコード、写真や動画の活用を検討 ・音声発信など耳から入る情報発信の検討 ・電光掲示板など目から入る情報発信を増やせるといい ・遠方に住むご家族にも高齢者の相談先や相談のタイミングがわかるような情報発信を検討 ・「〇〇さんがやっているよ」という良いやり方を市民に知ってもらうことで広く地域に健康観などが広がっていきける。 ・市民が「やれそうなこと」、「やってもいいかも」から徐々に地域に広がっていく。
誰もが通いやすい通いの場・サポート	・生活支援のボランティア支援による地域の活動の場への同行支援が充実していけるといい ・認知機能低下のある方に対する声かけ、見守り、傾聴ボランティアについてオレンジメイト(認知症ボランティア)とマッチングができる体制を整える ・子ども向けの認知症サポーターの育成 ・通いの場へ行くまでの高齢者サロンバスのような移動手段 ・高齢者サロン開催日に合わせて移動販売車を調整し、行くと何かプラスになる仕掛けづくり ・健康麻雀を地域で実施できるようリーダー育成研修を実施し、地域単位で健康マージャンを広めていく

令和7年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(2)

「多職種連携会議から把握した課題」

課題	助言・提言
移動に関する暮らしの支援	・免許返納により受けられる割引やサービス部分も伝えていく ・老後の交通手段の一つとしてミニバスが活用できるよう、乗車に対する不安を軽減できる試乗会などの取り組みがあるとよい ・ミニバスの乗車時やサロンまでの移動の際に支援してくれるボランティアがいるといい(歩行器を一緒に乗せてくれる等) ・高齢者サロン「よりみち」の取り組みなどを他のサロンに知ってもらうなど、良い取り組みをしているサロンの取り組みを横展開して知ってもらう機会あるといい ・ボランティアポイント制度の導入
地域の男性が活動できる機会	・希望すれば長く働けるような支援、サポート ・60才～70才など年齢を重ねる前からの支援 ・男性が興味のある内容を把握 ・認知機能低下のある方で、ボランティア活動の希望がある場合はボランティア先として、介護保険サービス事業所と連携していけるといい

令和7年度 第2回地域ケア推進会議まとめ(3)

「地域ケア個別会議から把握した課題」

課題	提言
介護分野だけでなく、本人を取り巻く状況により支援が複雑化している	・介護分野と障害分野の情報交換や定期的な勉強会などにより日頃から関係性をつくることが大切である。 ・ケース支援においてうまくいった部分、うまくいかなかった部分を丁寧に振り返り事例検討することも大切である。次につながる課題を見つける。 ・世帯に課題をもつケースについては、関係職種を含め事例検討を行う。関係者同士で集まることで連携してもいいんだという意識化。